



平成28年度 学校だより

緑 柏

長崎県立佐世保南高等学校

No. 144 平成29年 3月24日発行

発行責任者 松井 裕次

校長室の窓から

長崎県の進学校の役割

校長 松井 裕次

都会と地方は環境が異なる

東京に住む私の兄は車に乗らない。東京都内は地下鉄が網の目の様に発達しているので、移動は電車が1番、渋滞に巻き込まれることもなく、時間が計算できると言う。都内だけでなく、関東一円は通勤・通学圏なのだ。佐世保から北九州や熊本の距離でも通勤・通学できる感覚だろう。

私の甥は都立では屈指といわれる進学校に通っていた。彼は私立大学文系コースだったことから、3年生になると週の半分は半ドン（昼まで）で家に帰っていたという。彼は自宅に帰り食事をし、夕方の野球部の練習に備えたが、友人の多くは予備校に通って勉強していたという。私立高校ならまだしも、都立の進学校ですら、昼間の時間まで予備校に譲っていることに驚かされた。家庭は無理をして大きな投資をし、生徒は深夜まで予備校で学習する。家族全員が夕食を共にすることは殆どなく、コンビニで孤食をとることになる。

また、都内の国公立と言えば東大を含めて数校しかない。自宅から通える私立がたくさんあるというのは、都会に住む高校生の大きなアドバンテージだ。長崎県の進学校で新入生に進路希望調査を実施すると、99%は国公立大学と書いてくる。私自身、高校時代に私立大学の選択肢はなかった。よく格差といわれ、家庭の経済的な事情だけがクローズアップされるが、教育についての格差は都会と地方の格差もあると思えてならない。

都会と地方では高校の役割も異なる

都立高校の通学区域は都内一円。時間外の指導は難しい。校門を出た瞬間から各自・各家庭に任されている。

地方では学校が時間外の指導の大部分を担ってきた。私自身、長崎県の進学指導を誇りに思って取り組んできた。そして、教職員が生徒・保護者のニーズ（国公立大学進学）に応えてきたのは事実である。

平成14年度に完全学校週5日制となった。都会の感覚で始まった制度に、地方は戸惑った。50分×7時間授業に取り組み、土曜講座（本校ではSプロ）を組んで、演習時間の不足を補うことに追われてきた。

高校入試と大学入試は異なる

先日高校入試の忘れ物に、「5教科の重点まとめ」という小冊子を目にした。直前まで熱心に勉強している中学生の姿を想像したが、この1冊だけに賭けていたのではないかという不安がよぎった。

高校入試と大学入試では圧倒的に「学習の総量が異なる」ということを理解してほしい。高校3年間の教科書・ノート・参考書・資料集等を積み上げれば天井まで届く高さになる。今、思考力・判断力・表現力が求められている。しかし、それだけを学ぶことはできない。学習の絶対量があって初めて、身に付く力である。

新年度からの南高の挑戦①

卒業した69回生、一人ひとりが清冽で透明な南風だった。念ずれば花開く。抜群の出席率の高さ、想いの強さが未来につながると信じている。先日、1・2年生が南風の吹く1つ上の上階（3階4階）へ教室を移動した。

今、南高はICT環境の整備、授業のICT化に取り組んでいる。一方で、授業と連動し精選された適量の課題、科目によっては習熟度に合わせた内容を準備している。決して旧態依然の量だけの課題は出していない。

また、新年度から「朝自学を撤廃」する。土曜講座(Sプロ)を減らし、その時間分だけ朝講座を実施する。

これからは生徒に対して、より「主体的な学習」を求めていく。それが人間力の育成につながると信じている。

○第69回卒業証書授与式

3月1日(水)に第69回卒業証書授与式を挙行政いたしました。本年度も式の前に特別表彰式を行い、県教育委員会より優良卒業生徒として矢動丸尚輝君、県高体連より卒業生顕彰として松本彩起子さん、県高文連より卒業生顕彰として北村美紅さんが表彰されました。式は厳肅な雰囲気の中で行われ、卒業生代表の福住 彩さんは、答辞の中で、チーム69のテーマソング『あとひとつ』の歌詞を引用して、「この曲にあるように、自分の未来を信じて、どこかで頑張っている69回生の仲間たちの姿を信じて、前に進んでいこうと思います。」と決意を述べました。その後、全員で式歌「蛍の光」と校歌を斉唱し、会場は大きな感動に包まれました。男子122名、女子109名、計231名が3年間の思い出を胸に抱き、学舎を巣立っていきました。ご多用中ご臨席を賜りました来賓の皆様、保護者・地域の皆様、本当にありがとうございました。



○第42回吹奏楽定期演奏会

3月20日(月)アルカスSASEBOで第42回の定期演奏会を開催しました。一部は現役部員のステージ。30名と少ない人数ながら落ち着いて、ここ数年では一番流れの良い表情豊かな良い演奏ができました。二部ではコーラス部・邦楽部・バトン部がそれぞれに持ち味を十分に発揮し、味のあるそして楽しいステージを作り上げました。三部ではダンスを含めた動きを伴って若さあふれる演奏演技を披露しました。最後の四部はOB・OGを加え総勢110名以上の大編成で迫力の演奏で、正にテーマの「REVE」のとおり音楽への熱い思いを思いっきり爆発させました。

大勢のOB・OG、そして現役部員に囲まれこの立派なホールで終えることができました。



○第16回芸術フェスティバル

3月20日(月)アルカスSASEBOの大ホールロビーで、美術部・写真部・書道部・科学部などの作品展示や活動内容の紹介を行いました。来場した方々は作品の前で足を留め、中には声かけやアドバイスをしてくださった方もいらっしゃいました。今後の活動につながる良い刺激となった1日でした。



○1学年 百人一首大会

3月22日(水)、本校柔道場にて毎年恒例の百人一首大会を実施しました。日本の伝統文化である和歌に親しみつつ、競技としていかに多くの札を取れるかを競い合いました。本年度は1年4組が優勝しましたが、各クラスとも「1年生最後の行事」ということで、チームワークを発揮し、白熱した戦いとなりました。



○海外短期研修 (事前研修)

3月13日(月)、海外研修に参加する40名を対象に、高大連携派遣講義が行われました。今回の講義は、長崎国際大学の新藤照夫准教授によるもので、「異文化間コミュニケーション」をテーマに、研修の心構えから、発音のコツ、アメリカ人と日本人のコミュニケーションの取り方の違いなどを学びました。参加者は、普段の英語の授業とは違う観点からの講義に、とても興味を持ちながら、熱心に取り組んでいました。25日からは、カリフォルニア州で姉妹校のビスタマリエタ高校と、姉妹港のサンディエゴ市との交流をメインにした海外研修に臨みます。



○南高リニューアル

3月17日(金)にグラウンド改修工事が終わりました。この日は、グラウンドを使用する4つの部活動で竣工式を行いました。校長先生からは、安全に気をつけ、グラウンドを使用できることに感謝の気持ちを持ち、部活動を頑張ってくださいと話がありました。また、工事を担当されたからの挨拶もあり、これから、大切に使用していきたいと思えます。



○後期校内球技大会

3月14日(火)に、後期校内大会が行われました。今回は、グラウンド改修のため、男子(バレーボール、ドッジボール)女子(バスケットボール、ドッジボール)の3種目が開催されました。どの会場も白熱した戦いが繰り広げられました。正々堂々と真っ向勝負をする様子や必死に声援を送る姿など様々な場面でスポーツを楽しむ姿が多くみられ、非常にいい行事となりました。このパワーを南高の活力へと繋げていきたいと思えます。

～結果～

【男子】 ○バレーボールの部
優勝：2年3組B
準優勝：2年3組A

○ドッジボールの部
優勝：1年6組
準優勝：2年4組

【女子】 ○バスケットボールの部
優勝：2年2組
準優勝：2年1組

○ドッジボールの部
優勝：2年6組
準優勝：2年3組A



○女子バスケットボール部躍進（九州第3位）

本校女子バスケットボール部は、去る3月18～20日に宮崎県で開催された「全九州高等学校バスケットボール春季選手権大会」に出場しました。各県の強豪校に怯むことなく勝ち上がり、「九州第3位」という素晴らしい結果を収めました。短い春休みを挟み、新年度、更なる飛躍を見せてくれるものと思います。今後も本校女子バスケットボール部の応援をよろしくお願いします。

【全九州高等学校バスケットボール春季選手権大会（結果）】

1回戦 佐世保南 86－68 大分藤蔭（大分2位）

2回戦 佐世保南 59－50 那覇（沖縄1位）

準決勝 佐世保南 54－96 福大若葉（福岡1位）

シード決定戦 佐世保南 79－65 熊本国府（熊本1位）



中尾キャプテンのコメント

今回の九州大会では、大分藤蔭・那覇・福大若葉・熊本国府という九州各県の強豪校と真剣勝負することができました。これまで自分たちが積み重ねてきた技術やチームワークが通用した部分と、まだまだレベルアップが必要だと感じる面との両方が感じられる大会となりました。これから新入生も入部し、部の内外において、競争が激しくなると思いますが、チーム一丸となり、部のスローガンである「悠々として急げ」を体現できるように頑張りたいです。これからも応援よろしくお願いします。

○各種表彰

- ・吹奏楽部：第42回九州アンサンブルコンテスト サックス四重奏 銀賞
- ・邦楽部：佐世保市文化優秀奨励賞
- ・羽田里奈：平成28年度長崎県高等学校総合文化祭 感謝状
- ・野中麗奈：第62回青少年読書感想文長崎県コンクール高等学校 自由部門 優秀賞

○今年度、離・退任される先生方の一覧です。

【転出者】

教頭	大川周一先生	県教委義務教育課児童生徒支援室
教諭	石橋誠一郎先生（生物）	長崎北陽台高校
教諭	石橋周一郎先生（英語）	長崎西高校
教諭	瀬崎ゆかり先生（国語）	長崎工業高校
養護教諭	荒木千春先生	国見高校
主任主事	氏福貴幸先生（事務室）	鹿町工業高校
主事	小笠原恭輔先生（事務室）	県教育センター総務課

【退職者】

教諭	平瀬裕明先生（音楽）	松浦高校
講師	岩本晃治先生（地理）	大村城南高校（新規採用）
講師	小宗武裕先生（国語）	対馬高校
事務	横井勉先生	
事務補助	川原かおり先生	



